

2016年9月 NPO法人わびねす ワークキャンプ報告書



マニプールハンセン病コロニー協働型ワークキャンプ

1. 概要

開催場所	インドウエストベンガル州プルリア地区マニプールハンセン病コロニー
活動期間	2016/09/03～2016/09/16
参加者数	日本人学生7人 コロニーの若者有志7名 近隣に住む若者有志1名
主なプロジェクト	・ワークプロジェクト ・クリーンプロジェクト ・エンターテイメントプロジェクト
協力・支援団体	・笹川記念保健協力財団 ・Manipur Leprosy Rehabilitation Centre

2. マニプールハンセン病コロニーについて

コロニーの正式名称			
Manipur Leprosy Colony			
コロニーの住所			
Po-Adra, Dist-Purulia, Pin-723121, WestBengal, India			
リーダーの氏名・連絡先			
Nabakumar das / 09434543344			
アクセス			
・ アドラ駅から西に 0.5km ・ アドラバス停留所から西に 0.5km			
コロニーの登記の有無			
登記済み			
コロニーの土地の所有			
Manipur Leprosy Rehabilitation Centre 所有			
総家族数	総戸数	ハンセン病快復者数	
212 人	212 人	457 人	
コロニー人口内訳			
男性	女性	子供	総人口
338 人	317 人	290 人	995 人
建物・家の状態			
泥・土壁（88%）・レンガ（10%）・コンクリート（2%）			
建物・家の所有			
個人所有			
コロニー内の基本設備・施設			
水道	7つのハンドパイプ有り。しかし、5つ足りない。水の状態良好。		
電気	ある。何人かはお金を払っているが、多くの人は盗んでいる。		
道路	ボコボコで舗装されていない。		
学校	小・中学校はコロニー内にあってすべての子供が通っている。 高校は全員通うことができるが、お金の問題で通えない子もいる。		
病院	ない。薬や包帯を政府が支給してくれるが十分でない。		
医療			
コロニーから 6 km 離れた場所に政府の病院がある。車かオートリクシャーでしか行けない。 診察には、貧困層の人々が持つカードをみせれば、無料で治療してくれる。			

<p>しかし、これはカゼのような軽い病気に限られており、手術を要する高額医療などはお金が掛かる。また、後遺症のある人の診察は、医者が怖がったり、気味悪がったりして、ほとんど診てもらえないのが現状である。</p>
<p>政府からの支援</p>
<p>子供1人につき1ヶ月／900ルピー支給されるのみ。 ハンセン病快復者へのサポートは一切ない。</p>
<p>民間団体からの支援</p>
<p>Manipur Leprosy Rehabilitation Centre(マニプールコロニー村長であるDas氏が代表を務めるNGO団体)</p>
<p>近隣の人々との関係</p>
<p>隣村の人はよく来るし、良好な関係が築けている。お茶も一緒にしたりする。しかし、以前はそういう良好な関係ではなかった。数年の間、頑張ってハンセン病が危険な病気でないことを説明し、納得してもらえるよう働きかけた。</p>
<p>生計</p>
<p>①物乞い(95人)②家畜(60人)③土方(55人)④農業(26人)⑤売店(25人)⑥事務職(20人)⑦公務員(15人)⑧失業者(85人)しかし、職に就いている人も本職だけでは生活ができず、181人が掛け持ちで物乞いをしているのが現状である。</p>
<p>宗教</p>
<p>ヒンズー教(大多数)・イスラム教(少数)・キリスト教(少数)</p>
<p>現在、コロニーの人々が必要としているもの</p>
<p>泥・土壁の家がボロボロ。通常3年しか保たず、雨期には崩れるため建て替えが必要。</p>

3. ワークプロジェクト報告

<p>【実施内容】 1箇所(1)の井戸の建設</p>
<p>【実施目的】 乾季になると池の水が干上がり、池の水を使つての洗濯、食器洗い、水浴びといった生活用水が不足してしまうことから、井戸を建設することによっていつでも必要な分量の水を確保できる環境を整え、衛生的で心身ともに健康に暮らすことができること。</p>
<p>【裨益者数】 建設する井戸周辺に住むコロニーの人びと約300人。</p>
<p>【成果】</p>

井戸を建設することで、必要な生活水の確保がどの時期でも可能になった。また、水質汚染が進んでいる池の水ではなく、衛生的な地下水を利用してもらえる環境整備を行ったことで、健康上の疾病予防などにつながる他、池の汚染を進行させる一つの原因を取り除くことができた。



4. その他のプロジェクト・活動報告

クリーンプロジェクトとしてのパーティでの啓発活動

【概要】 他のコロニーと比べて、比較的インフラが整っているマニプールコロニーであるが、コロニー内の道路や池などにゴミが散乱しており不衛生な状況にあることから、数年前にクリーンプロジェクトを立ち上げて、ゴミ集積所の設置や家々を回ってのゴミ捨てに関する啓発活動などを行ってきた。今回は、これまで比較的効果があったパーティでのゴミに関する啓発活動を継続して行った。

【裨益者】 パーティに参加したコロニーの人びと約 500 人。

【成果】 多くのコロニーの人々が集まってくれ、パーティでのダンスを楽しみながら、ゴミに関する正しい知識を得ることができた。大人世代の習慣や意識はすぐには変わらないものの、劇を通して行った啓発活動によってまずは子供達から正しい習慣や知識を知ってもらい、パーティ後のゴミ拾い大会などで一緒にコロニー内の清掃を行うことで、子供世代から意識を変えていくことができると感じた。



協働型ワークキャンプの成果

【概要】 協働型ワークキャンプとは、日本人学生だけでなく、そのコロニーに住む若者有志（ユースキャンパー）と寝食を共にし活動を計画・実行する形式のワークキャンプを指す。目的としては、若者自身や出身村であるコロニーに対する肯定感を高めること、将来について考えるきっかけを与えること、将来コロニーを担う若者に自発的にコロニーをよくする活動を展開する自助組織の形成が挙げられる。

【裨益者】 コロニーの若者有志 7 人・近隣に住む若者 1 人

【成果】 今回のワークキャンプではインフラ整備に重点を置くのではなく、ユースキャンパーとの対話やディスカッションを通してコロニーの今や将来について考えてもらう機会を多く設けた。そこで得られた回答としては「キャンプが楽しいから」「コロニーをきれいにしたいから」というものが多くあり、ユースキャンパー達が意図せずとも、楽しさから次第にコロニーに対して目を向けていきつ



つあることが垣間見ることができた。これまで複数回のワークキャンプに参加したユースキャンパーの一人は、村長にコロニーが今抱える問題について話し合いの場を設けたりと、一部ではあるが自発的な行動を行うメンバーが現れたこともヒアリングすることができた。しかしながら、自助組織形成までにはまだ回数、対話、意識の変化が必要であるとも感じたため、今後も活動を重ねていくことで目標達成を目指したい。